沿岸大火時の気象

梅田三郎

フェーン風が原因
条件備っていた大火

大火の発生までの気象経過

五月は一年中で最も日照り時間が多く、風も四月についで強く、根雪消失後かなり経過した時期に当たるので、北国でも乾燥のはなはだしくなる季節であり、移動性高気圧におおわれることも多いので、天気良く、降雨を見ることの少ないのが普通である。

ことしの五月の気象経過を見ると四日、十二日、十九日、二十二日ごろに低気圧の通過があったが、例年にくらべ一般に降雨量は少なく、ちょうど田植え期に当たった関係もあって発芽生育はつと疑がれるに至った。その後二十四日には小低気圧が本州南岸を東進したが、雨の区域は本県に及ばず、二十五日には優勢な移動性の高気圧におおわれたので、その後晴天が続き、ことに二十七日以後はこの高気圧は南に移ったので南よりの暖温な風が吹き、蒸夏と変わらぬ暑さを示した。

一方、二十七日ごろ台湾を発した台風四号は二十八日には上海付近に進み、その後いったん衰え低気圧となったが、二十九日朝、日本海中部に達し、しだいに発達し本邦全域がその影響下にはいり本県では南寄りの風が強まり、午後には風はしだいに南から西に回り瞬間最大風速は十三時五十分二四メートルに達した。その後三十日朝まで平均一〇メートル内外の強さで吹き続いた。日本海を通る台風や低気圧では一般的に多量の降雨は期待できず、今回も降雨は数ミリで干ばつを解消できず、異常な乾燥状況も解消されていない。

今回の気象経過で特筆したいのは、風の強い吹いた時期の風向きが西よりだったことで、三陸沿岸では北上山脈を吹きおろす高温で乾燥した風、つまり「フェーン風」らしいものに見舞われたらしいことである。表日本沿岸では「フェーン風」がしばしば起こり一般にもよく知られているが、裏日本側ではあまり起こらず、ごく珍しいもので、くわしく調査して見ないとわからないが、とにかく「フェーン風」らしい現象が起こったものと考えられる。

大火発生までの気象的原因

以上の気象経過から見てわかるように今回の大火を発生させた原因は次のように要約される。

(イ) 晴天続きで降雨少なく、干ばつが疑がれるほどの湿水乾燥の状況にあったこと。とくに二十五日以後晴天で、二十七日からは極端な高温に見舞われ、ますます乾燥した。

(ロ) 台風くずれの低気圧が日本海で発達し、強風を吹かせたが雨をほとんど伴わなかったこと

梅田三郎氏

(ハ) 強風時の風向きが西寄りで三陸沿岸では「フェーン風」らしい高温で乾燥した風となり、ますます乾燥状態を促進したこと

火災の発生の危険は乾燥状態にあり、発生した火災が大火災となるには風の強いことが必要条件であるが、とにかく当時の気象状況は火災の発生しやすい状態にあった。火災が発生すれば大火となる条件が備わっていた。

「フェーン風」による最近の大火

風がきっかけとなって山脈を越えてくる発達の温度は異常に昇り、湿度はなはだしく下がるので、山がけになる地方ではなはだしく高温で乾燥した風が吹く。これをフェーン風というが、このような状況は火災に最も危険である。低気圧が日本海を通るときや、日本海で低気圧が発達するようなとき、裏日本でほとの風が吹きやすい地域に当たる。

本邦では古来フェーン風が原因となった大火は主として裏日本で起こっており、台風や低気圧が日本海にはいるようだったら裏日本ではまず火災に気をつけようといっているくらいである。近代発生したこの種の大火は次のとおりである。

(a) 昭和二十七年四月十七日鳥取市で七、二四〇ぢね焼失

(b) 同二十九年九月二十六日宮内町で三、二九八ぢね焼失（阿蘇地方台風）

(c) 同三十年十月一日、敦賀で八九一ぢね焼失（台風二号）

(d) 同三十一年三月二十日、能代市で一、四七五ぢね焼失

(e) 同三十一年八月十八日、大館市で一、三四四ぢね焼失（台風九号）

(f) 同三十一年九月十日、魚津市で一、六七七ぢね焼失（台風二一号）

これらの大火はいずれも「フェーン風」の吹き続いたさいのもので裏日本の大火災といえばほとんどこの「フェーン風」の吹きやすい気圧配置になったときに限られている（昭和二十四年冬の能代市の大火災は特殊風の影響のものであり、例外もないわけではない）

しかし「フェーン風」は山越えの気流さえ起これば発生するので必ずしも裏日本に限られたものではなく、北海道東岸などでも発生することがあり、昭和十二年春の北見の山火事は枝幸の市街を全滅させたことがある。今回の大火はこの場合によく似ている。

（盛岡地方気象台長）

被災者の氏名

◇田老町

▽樋内部落　島居永吉　小林久力　清水角八　小林初五郎　小林登一　久保田半之助　久保田繁男　島居栄太郎　島居栄太郎　島居初之助　島山彦次郎　影田久保太郎　影田久保佳司　小林ミツ　▽新田部落　内沼松　菊地栄次郎　吉川惣次郎　山本彦太郎　大平沢郎　▽末前部落　佐藤才助　▽青野滝部落　吉水長蔵　吉水源三郎　吉水直吉　佐々木梅吉　吉水清三郎　佐々木栄作　山本鶴次郎　山本初之次　吉水長一　▽小堀内部落　吉田与次郎　阿部治平　佐々木作太郎　松沢秀一　佐々木文助　鶴蒲春吉　島山長作　森山豊　山本藤間　大平嘉蔵　▽畑部落　島山長右衛門　島山長右衛門　島山キヨ　島山長蔵　外山常松　伊東嘉蔵　大崎利郎　荒谷春　佐々木吉三　東竹部落　佐々木光司　中広吉孝　野崎治司　高橋政　薄井治郎　鈴木正天　外元郎　新井米吉　小田嶋栄　山本公蔵　三浦助男　西島俊治　小野心一　増本嘉一　西島俊治　小野心一　増子重蔵　吉井啓二　鳴谷寛蔵　金野助一　中野井吉　佐々木鶴之村田常三　田中清　柴田京子　梶村田常次　山田久人　村井慎　小野寺鉄三郎　菅原弘一　阿部政見　高橋久　山井正和　岡見治　蛯子真二　高津道夫　日下彦彦　佐々木元　宮川清　桧森安彦　佐々木光司　佐々木ツメ　南野収三　宝山嘉生　佐々木正孝　北水郎　守田英昭　伽藍寺高　福山清天　村田雅彦　田西国雄　小塚孝也　鎌本金之助　田中鉄子　村勉　角田正夜　鶴岡フクエ　佐藤洗　照井勝　佐々木ミヨ　金野恒輔　上沢留吉　和田初江　藤石治　横坂勇平　工藤松之助　高橋四郎　中屋敷弘司　川村社五郎　大沼次郎　鶴田勝次郎　藤森義一　佐々木安三郎　滝上義雄　一盃森正志　佐藤千葉　館喜一郎　遠藤ヨシ　伊藤新吉　中屋子ヨ　前川巡　中田孝一　中鳥竹司　沼崎善一郎　野崎啓子　駒井隆子　鈴木信助　小山仁太郎　三田地信一　伊藤シゲ　小野寺治治　及川千夏　貫洞義光　武田義四郎　永瀬友朗　佐藤俊雄　北沢勇七　立田栄之助　大沼民男　大沼正天　佐々木喜吉　津志田与　松之助　高橋栄　藤野栄蔵　藤野直義　引地義　石橋　鶴田勝次郎　川村社五郎　大沼次郎　立親春治　川村社五郎　藤森義一　佐々木安　